

+

# ナマステ

特定非営利活動法人  
自然文化誌研究会 会報誌

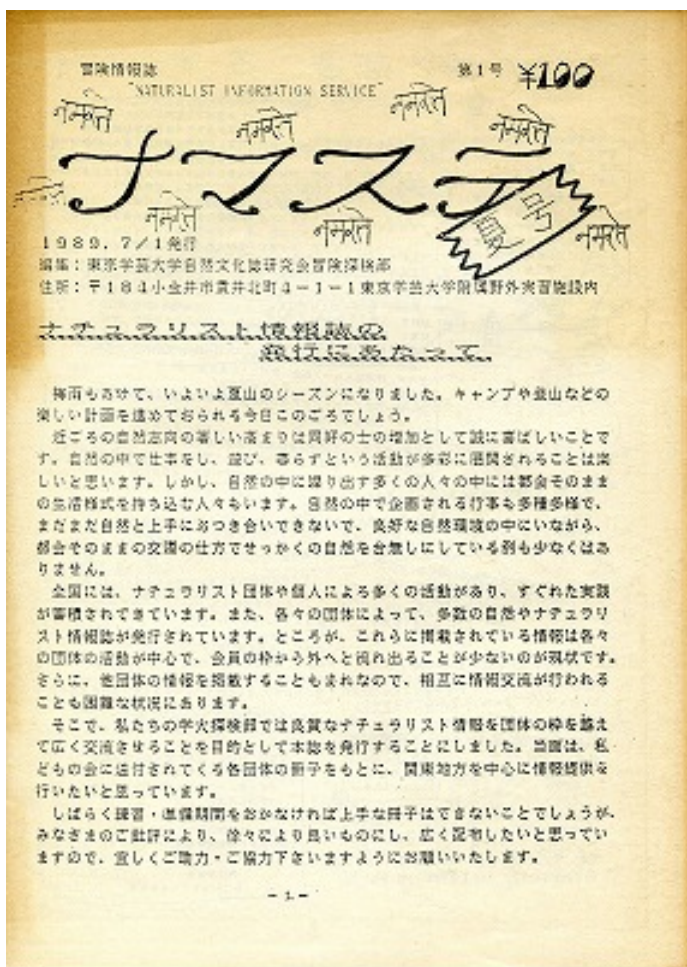
## 100号

2010年6月1日発行号

### 祝・ナマステ 100号記念、ナマステ特集！！

1989年より発行を開始した『自然文化誌研究会会報 ナマステ』。皆様のご声援もあり、記念の第100号の発行を迎えることができました。その間、自然文化誌研究会もず〜っと活動を続けてきたわけであり、今後とも、自然文化誌研究会は活動を続けていきますので、よろしくお祈りします。

今回は「ナマステ特集」ということで、会報ナマステの歴史をたどりたいと思います！！



ナマステ第1号 1989年7月1日発行

No.: ナマステ第1号

発効日: 1989年7月1日発行

サイズ: B5×8 ページ

編集機器: ワープロ

特徴:

- ①「ナチュラリスト情報誌の発行にあたって」という最初の話題がある。
- ②冠に「冒険情報誌」と謳っている。
- ③¥100で販売もしている。
- ④「アイヌ・チセづくり」を掲載。
- ⑤他団体の情報が4ページある。
- ⑥葛生聡氏「身近な冒険」を寄稿

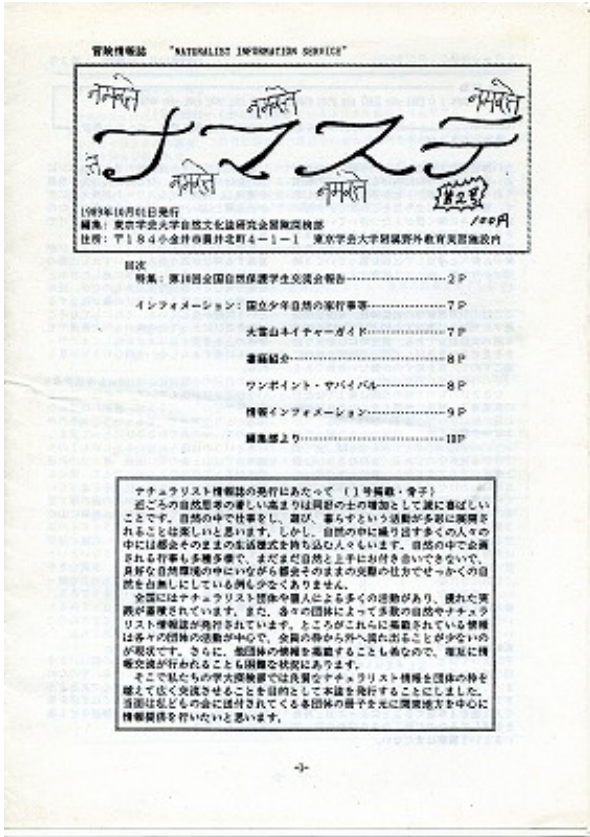
#### －ナマステ100号 もくじ－

ナマステ特集	1
夏の活動のご案内	6
冬～春の活動報告	9
タイキャンプからの報告	9
事務局だより	12

＜寄稿文＞ 『ナマステ100号・・・すごいです！』 代表理事 中込卓男

1975年にスタートした自然文化誌研究会ですが、当初このような会報誌はありませんでした。事務局体制ができ、会報誌ナマステが誕生しました。歴代事務局長を中心に毎回、発行してくれていたことが、今回を迎えてくれています。きちっとしたものを作ろうということの反動(?)で、描きたいものを書いた「キッズ会報」が自然発生し、それが人気で、近年また復活したし、現事務局長はホームページでいろいろ日々の出来事を書いてくれ、それがまた好評です。

さて「ナマステ」この先またいろいろとスタイルを変えていくと思いますが、事務局から原稿を依頼されたら、断ることなく、締め切りを過ぎることなく、楽しく自由に、内容の深い(と思われる)ものを、書いて協力してください。よろしくお願いいたします。



ナマステ第2号 1989年10月1日発行

No.: ナマステ第2号  
発効日: 1989年10月1日発行  
サイズ: B5×10 ページ  
編集機器: ワープロ  
特徴:  
①¥100で販売している。  
②小川泰彦氏「ワンポイントサバイバル」でナイフについて寄稿しているが、No2 となっており、No1は発見できず。  
③連続講演会「アジアを考える」(連絡先: 瀬谷氏)が11月8~12月6日の全5回で企画されている。



ナマステ第10号 1992年4月1日発行

No.: ナマステ第10号  
発効日: 1992年4月1日発行  
サイズ: B5×6 ページ  
編集機器: ワープロ  
特徴:  
①中津川(旧大滝村)で新緑キャンプを開催している。  
②3月に臨時総会により、名称が変更している。学芸大自然文化誌研究会→自然文化誌研究会(INCH = THE INSTITUTE OF NATURE AND CULTURAL HISTORY)へ変更。「INCH」とは「ゆっくり、のんびり」意味があるようです。

『ナマステありがとう』 岩谷美苗 (初代事務局長・現在 NPO 法人樹木生態研究会 事務局長)

ナマステ100号すごいですね。

第1号は木俣先生に「なんでもいいから早く作れ。」とせっつかれ、悩みながら作った記憶があります。とりあえず埋めようって絵を入れたり、毎回毎回行きあたりばったりの試行錯誤で、走りながらやりました。今思えば恥ずかしいのもあったらうなあ。読み返したくないな。

しかも印刷場所に毎回苦勞してました。いろんな場所で印刷させてもらってましたね。途中印刷機をもらったこともありましたが古過ぎて、近所で活動する多摩川センターさんに借りてたと思います。そういえば昔は携帯もメールもないもんで、電話するのに公衆電話まで行ったりしてました。原稿もメールでもらえないから時間がかかったです。写真は印刷でうまく出ないから絵を書いたり・・・今思うとローテク満載でした。

原稿の集まりもよくなって、頼むのも面倒で私が書いてやるって書いてました。(人のことは言えません。この原稿も締め切り過ぎてます。)

しかし、私にとっては書く訓練になりました。森林インストラクターの試験の前に鬼のように記事を書いていたんですが、短い時間で文章を書くとかできるようになってたんです。森林インストラクターの試験は「300字以内で述べよ」ってのが1時間で5題ぐらいあったんですよ。それは助かりました。ナマステありがとう。

大滝村等で教わった〇〇の作り方とかそういうマニュアル的な記事は、のちそのまま集めれば本になるようにしたかったんですが、結局忙しさに流されて隙間を埋めるようにしか作れなかった。保存版・・・みたいなのができるといいなあと思っているので、ぜひ101号からできたら保存版的なコーナー作って下さい。でも事務局に重圧がかかりすぎてそういう細かいことができないんですよ。それはわかる。そういうところをサポートしてくれる人を見つけないですか。っていうかサポートできそうな人、事務局までご連絡ください。



No.: ナマステ第 25 号  
 発効日: 1994 年 11 月 1 日発行  
 サイズ: B5×6 ページ  
 編集機器: ワープロ  
 特徴:  
 ①自然文化誌研究会の事務所が国分寺市本多の  
 一心堂ビルに移っている。

No.: ナマステ第 26 号  
 発効日: 1995 年 1 月 20 日発行  
 サイズ: B5×6 ページ  
 編集機器: ワープロ  
 特徴:  
 ①現在使用している「ナマステ」の題字がはじめて登  
 場したのがこの号。

『便所の中で考えた「ナマステ」』  
小川泰彦（INCH前事務局長）

本会の会報を作り始める前に、当然会報の名前を決めようということになった。当時インドにかぶれていた私は「会報の名前はナマステがよい！」と強く主張したことを覚えている。とりあえず妥当な名前が出てこなかったことや、本会の主要メンバーが日本人らしからぬインドの人の顔をしていて、またその方がインドで仕事をしてきたこともあって、そのまま「ナマステ」に決まってしまった。

ナマステという言葉はインドのヒンディー語で、インドを旅行すれば何度も使う言葉だ。「こんにちは」「ありがとう」「こりやまたどうも」など、いろんな場面で使うことができる。会報を配る時に、聞きなれないナマステという言葉からよく「なまず?」「なにこれ?」と聞き返された。

最近はどうだか知らないがその当時、「インドを旅行した人は『もう二度と行かない』という人と『また行きたい』という人に分かれる」とよく言われた。私は後者だった。インドの旅行は日本の中で培われた私の価値基準の【ものさし】を粉々に打ち砕いてくれた。具体的にはどうかと聞かれれば・・・自分が良し悪しを判断している感覚や理論は実は鼻くそで・・・すべてを飲み込む聖なるガンジスの流れが・・・混沌と混乱の中にある穏やかな秩序が・・・「うーむ」・・・私の能力では表現のしようも無い。少なくとも若かった私の人格に多大な影響を与えてくれたことは確かだ。

記念すべき第1号のナマステはB4版のわら半紙。手書きのところもあり、見た目や作りは野暮ったかったが、他団体の情報を掲載するなど当時としては画期的であった。そこからいろいろと体裁を変え、内容を工夫して現在の形になっている。本会が、なんでもありでごちゃごちゃで、なんとなく楽しくて、いいかげんでゆるゆるふにゃふにゃな感じがNPO法人となっても抜けない理由は、会報の名前を変えないからかもしれない。そして、本会の草創期から現在まで、集うみんなの

基本的なスタイルや思いは頑固なままでに変わっていない。

そのナマステが100号となった。「だったらどうなんだ?」といわれれば仕方がない。長い道のりの通過点の一つである。



ナマステ第 50 号 1999 年 8 月 20 日発行

No.: ナマステ第 50 号  
 発効日: 1999 年 8 月 20 日発行  
 サイズ: B5 × 8 ページ  
 編集機器: Word かー太郎  
 特徴:  
 ①自然文化誌研究会創刊 25 周年企画を募集  
 ②冒険学校の写真展を開催している(デジカメ・CD-R が普及していないためだろう)。  
 ③事務所は国分寺市本多から、東京学芸大学内に戻っている。

<豆知識>

- 1975 年 自然文化誌研究会 設立
- 1981 年 冒険探検部 設立
- 1985 年 自然文化誌研究会冒険探検部に合併
- 1992 年 INCH と呼称する
- 2004 年 NPO 法人自然文化誌研究会となる。

『就職してナマステ』

黒澤友彦 (2002 年から現事務局長)

1996 年に学芸大学に入学して冒険探検部に入部。そのまま自然文化誌研究会に関わったので、「大学から関わった INCH 純粋培養系」だと思っています。他団体のことは全然知りません。

2 年留年して卒業。そのまま INCH の事務局長としてめでたく？就職しました。今年で 9 年目。

私が担当したのは 64 号からになります。当時の OS は Windows97。Word の性能に大差はないが、デジカメはまだ普及しておらず、写真自体は実物を貼り付けていた。

当時は国分寺に事務所をもつ多摩川センターさんに印刷機を借りていました。

KIDS 会報は完全手書きで、会員の皆さんからの期待も高く、いつも苦しみました。冒険探検部の現役学生の女の子(りえまるちゃん)に書いてもらったりしていたが、10 回も発行したところでギブアップしました。現在の KIDS 会報は事務局でネタを用意するものの、理事の田之下さんが担当してくれています。実はもう、手書きではなく「手書き風のフォント」が存在しているのです。便利だな～。

最初のホームページは副代表理事の中込ミさんが担当してくれていました。いつの間にかホームページも事務局で管理するのは当たり前になり、日々の活動の様子もブログで紹介できるようになっています。便利だな～。

携帯電話や電子メールの普及により、事務所を空けて仕事もできるようになりました。この春に痔になった時は自宅で寝転がって仕事をさせてもらいました(事務所も家も、光ファイバーが通っているのです！)。

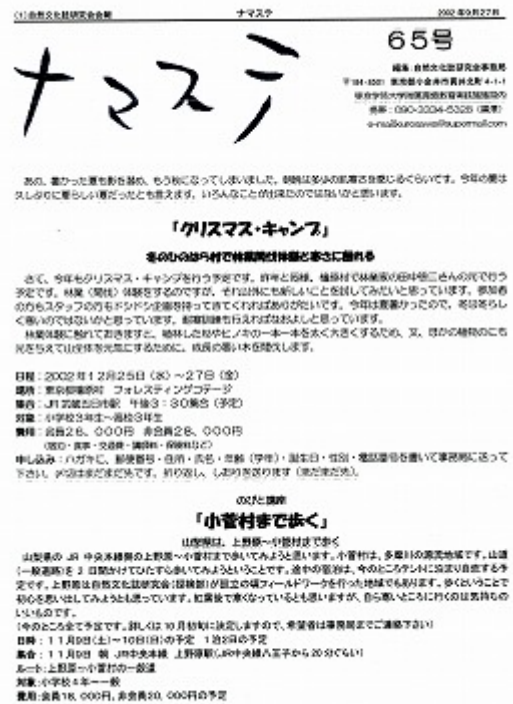
自分が担当したのは 64 号から。65 号では既に、「のびと講座 小菅村まで歩く」を企画しています。あべちゃん(井村さん)と一緒に上野原から歩いたな～。小菅村への第一歩となりました。

ナマステは B5 サイズから A4 サイズに変更。写真も増やし見た目はキレーになりました。しかし、「内容が薄い」というご指摘は多々いただいております。

便利になり、体裁は良くなるが、内容のないナ

マステは心のない挨拶です。精進したいと思います。

100 号を発行するまで働き続けることができ嬉しそうですね～。



ナマステ第 65 号 2002 年 9 月 27 日発行

No.: ナマステ第 65 号
発効日: 2002 年 9 月 27 日発行
サイズ: A4×4 ページ
編集機器: Windows97 Word
特徴:
①A4 で白い紙に印刷することになりました。
②「のびと講座 小菅村まで歩く」を企画。小菅村での初企画である。
③菱井優介くんが事務局に加わる 80 号あたりから、写真などがきれいに載りました。

<事務局より>

紙面が劣化する前に、これまでのナマステ・KIDS 会報をデータにしてホームページで見れるようにしたいな～と思っております。

(『ナマステ特集』これにて終了!!)